

口腔再生インプラント学実習（黒田 真司）

Training at Regenerative Implant Dentistry（Shinji Kuroda）

キーワード

- ①口腔インプラント
- ②欠損補綴
- ③診断学
- ④骨再生
- ⑤身体バランス

関連する学位授与方針
DP(ディプロマポリシー)

①,②,⑤

関連する教育実施方針
CP(カリキュラムポリシー)

①,②,⑥

授業概要

欠損補綴には床義歯補綴や冠橋義歯補綴に加え、21世紀に入って口腔インプラントがようやく一つの学問体系として欠損補綴学として築かれてきた。口腔インプラントは多岐に渡る知識と技能、つまり材料学、解剖・組織学、生理学、生化学、薬理学、また口腔外科学、歯周病学、口腔衛生学、放射線学を幅広く習得することが必要であり、生体組織と生体材料を調和させることで口腔機能および審美を回復させ、それを維持することが重要である。そこで症例に対して実習を行う。

授業科目の学修目標

1 口腔単位で研究結果や科学的判断に基づいた診察・検査・診断の重要性から、治療計画を立案する実習を行い、国内外で歯科補綴をリードする臨床を踏まえた研究者（Clinician Scientist）になることを目標とする。

授業計画

- ①インプラント立案実習 12コマ 黒田真司 山本麻衣子
- ②インプラント埋入手術介助実習 12コマ 黒田真司 山本麻衣子
- ③骨移植介助実習 12コマ 黒田真司 山本麻衣子
- ④インプラント2次手術介助実習 12コマ 黒田真司 山本麻衣子
- ⑤上部構造印象採得介助実習 6コマ 黒田真司 山本麻衣子
- ⑥上部構造装着介助実習 6コマ 黒田真司 山本麻衣子

教科書および参考書

よくわかる口腔インプラント学 第4版 医歯薬出版（教科書）
骨再生に強くなる本 クインテッセンス出版（参考書）

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

歯学部卒業レベルの予備知識が要求される。また、医療倫理、道徳、の内容を理解する能力が求められる。

大学院生が達成すべき行動目標

- ①インプラント立案を理解し、立案が出来る。
- ②インプラント埋入手術を理解し、その介助を実践することが出来る。
- ③骨移植を理解し、その介助を実践することが出来る。
- ④インプラント2次手術を理解し、その介助を実践することが出来る。
- ⑤上部構造印象採得を理解し、その介助を実践することが出来る。
- ⑥上部構造装着を理解し、その介助を実践することが出来る。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	実技	その他
20%	0%	30%	0%	0%	20%	30%	0%

評価の要点

- ・試験は、授業計画で行った実習の知識の理解度を判定する。1回20%
- ・レポートは、授業計画の6項目について課題を提出する。5%×6回=30%
- ・実技は、授業計画の6項目についてプロダクト達成度を判定する。5%×6回=30%
- 口頭試問は、授業計画の6項目について知識や技能、および一般的な注意点の理解度を判定する。1回20%

理想的な達成レベルの目安

口腔再生インプラント学実習の理想的な達成レベルは80%以上とする。